

第Ⅶ部

茨城県神栖市の城郭と居館跡

方形館跡と水堀(濠)や土塁がよく残存

花ヶ崎城(花ヶ崎居館址・萩原氏)跡



所在地・神栖市萩原

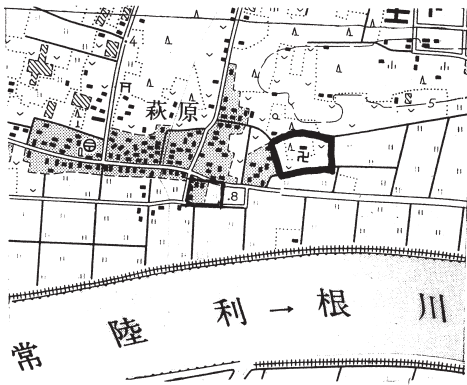
花ヶ崎城は別名を豊田城ともいう。『海夫注文』(応安年間南北朝時代、香取神宮蔵)に「はなかさきの津」(花ヶ崎知行)、「はぎはらの津」(萩原知行分)と記してあり、萩原地区には2つの津があり、2人の豪族がそれぞれの「津」を支配・管理していた。その1人・花ヶ崎氏は子孫も栄え、住みかであった居館跡も保護され花ヶ崎城として現在も残存している。城跡は県道(旧道)から少し北へ入った小高いところにある。「花ヶ崎城址」(豊田城)の標柱があるが、正しくは「館址」である。現在は浄動院(真言宗智山派無住)が建立されている。境内は東西に概ね80mから100m、南北も100m前後で方形館跡である。周辺に土塁を築き、水濠(堀)も施してある。築館年代は水堀の広さから築城方法が室町時代のものであろう。境内墓地には「花ヶ崎宗家追遠之碑」(高さ1・5m、幅90m)があり、子孫により花ヶ崎の歴史を刻し建立されている。

碑文には、宗家の祖先は光仁帝(第49代光仁天皇)の御楽胤(側室の子)で、萩原の里に居城、花ヶ崎日向守と称し、53カ所の所領(知行地)を持っていたとある。永禄元年(1506)に嫡子、千代寿丸が知行していたが、天正16年(1588)戦変により落城(廃館)し百姓になり四郎兵衛と名を改め、子孫は存続していたが、昭和4年に絶家したと記してある。近くに住む分家の花ヶ崎氏によれ

ば「私の隣が本家の四郎兵衛ですが、今でも大きな屋敷で、今は荒地となっているが本家は52代続いた屋敷内にある示石しめしに記されている。村内には花ヶ崎の姓を持つ氏族が約30戸あるが、みんな一族である」と話している。

浄動院の開山が永禄10年と記してあるので、寺は四郎兵衛の祖先が菩提寺として建立し、寺も以前はもっと大きかったと思われる。この花ヶ崎城（館）は室町時代の典型的な方形館跡で、四方を水濠（堀）と土塁を施し、よく残存し、遺構をとどめている。花ヶ崎氏の居館を廃して寺が建立されたものである。そののち江戸時代になってから

境内に一般墓地がつくられ、花ヶ崎一族の墓地もつくられたものである。



花ヶ崎城跡



花ヶ崎城